

宇美町

エコトリコ

(2016年広報1月号)



1988年に国連主導で地球温暖化防止のための研究機関として「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)が設立され、その調査結果や改善のための提案は各国で採用されています。1995年に「これまでの100年間では海面は10cm〜20cm上昇しているが、21世紀末には平均気温は2℃・海面は50cm上昇することが予想される」という発表がありました。発表当時は21世紀を直前にして「約100年後には…」という予想でしたがこの警告は有効とは云えなかったように、本発表の数値は今世紀どころか2050年には達してしまいそうな現況です。

自然界で二酸化炭素を植物が浄化してくれますが、各国の大規模開発で植物の数が減り続け、砂漠化されていく面積が増え続けているのが現況です。その対策として、緑化も大切ですが、まずは、二酸化炭素の排出量を減らすことが急務とされています。しかしながら、関係各国からは二酸化炭素の削減目標が出されているものの、一向に減る気配はありません。

真夏に雪が降ったり、真冬に気温が30℃を超えたりすると、「異常気象だ！」と大騒ぎになるとありますが、自然に異常はありません！自然を変えてしまう原因は、今に生きる私たちが取り除いていておかないと、50年後や100年後に異常気象が続発する事態になることが予想されます。その時代に生きる人々に申し訳ないと思うのですが…

2015年は太平洋の赤道直下付近の海水温が上昇し、観測史上2番目の規模の【エルニーニョ現象】が発生しました。海水温が高いと、雲が発生する量と場所が変わり、思いもよらない地域での集中豪雨の要因にもなります。

室外で何か燃やすと、煙は空高く舞い上がっていきますが、その時、二酸化炭素も発生し、私たちの目には見えませんが、宇宙の彼方へ飛んでいくことなく地表を漂い、地球温暖化の原因物質となります。その濃度は、平均して約200年前は280ppmであっ

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆